

国立西洋美術館世界遺産登録推進

? なぜこの事業を行っているのですか？

国立西洋美術館本館は、戦後、川崎造船所の社長であった松方幸次郎氏の西洋美術コレクションをフランス政府から寄贈を受けるため建設されたもので、近代建築の巨匠であるル・コルビュジエ氏の設計による、日本で唯一の作品です。建物の特徴は、螺旋（らせん）を描きながら延びる順路や展示品の増加に伴い渦巻きのように増床できる平面計画など、同氏が長年追及した「限りなく成長する美術館」の構想を具体化した貴重な例となっています。

この美術館は、平成20年2月にフランス政府が中心となって世界遺産（☞解説①）に推薦した世界6カ国・22の建築物の1つであり、東京都で初めての世界遺産となることが期待されています。



建築家 ル・コルビュジエ氏
(世界遺産登録推進啓発用ロゴマーク)



国立西洋美術館本館 国立西洋美術館®

? どのようなことを行っていますか？

登録の実現を目指して、台東区では次のようなことを実施しています。

- 世界遺産登録について区民の理解を求め、区民と一体となった取り組みを進めています。具体的には、国立西洋美術館本館世界遺産登録推進会議の運営や地元関係団体との連絡を行っています。
- 世界遺産登録に向けて区内外へ情報発信をしています。具体的には、区の広報紙や交通機関や商業施設でのPR、講演会の開催、国立西洋美術館施設見学会の開催、横断幕の設置などを行っています。
- 国立西洋美術館の周辺環境の整備について国や東京都と協議し、登録に必要な対策を進めています。

? 事業の進み具合はどうか？

- 平成19年12月 国立西洋美術館本館の重要文化財（建造物）の指定・官報告示
- 平成20年 2月 フランス政府が国立西洋美術館本館を含むル・コルビュジエ氏の設計した作品群を世界遺産登録に推薦
- 平成20年 3月 町会や商店街、鉄道各社など区内40団体の代表者による「台東区国立西洋美術館本館世界遺産登録推進会議」が発足
- 平成20年 6月 上野観光連盟、上野地区町会連合会、台東区商店街連合会などが中心となった「国立西洋美術館世界遺産登録上野地区推進委員会」が発足
- 平成20年10月 諮問会議「国際記念物遺跡会議」による現地調査
- 平成21年 5月 諮問会議「国際記念物遺跡会議」から「記載延期」の勧告
- 平成21年 6月 第33回世界遺産委員会（☞解説②）において、「情報照会」（☞解説③）の決議

? 今後はどのように取り組んでいくのですか？

世界遺産登録を目指す「ル・コルビュジエの建築と都市計画」については、ユネスコの世界遺産センターへ追加情報を提出し、次回以降の世界遺産委員会で審議を受けることとなります。今後、国や東京都などと連携を図りながら、世界遺産登録実現に向けた取り組みを着実に進めていきます。

また、ホームページなどを活用した情報発信力の強化、世界遺産保全のための周辺環境の整備など、世界遺産登録後の対応も見据えた取り組みを十分に検討し、実施していきます。

■ この事業に関するお問合せ ■

世界遺産登録推進室世界遺産登録推進担当

03-5246-1082

【語句解説】

① 世界遺産

地球の生成と人類の歴史によって生み出され、顕著な普遍的価値を有するもののことです。

② ユネスコ世界遺産委員会

世界遺産の登録申請物件の審議などについて話し合いを行う場です。

③ 世界遺産委員会決議区分

「記載」、「情報照会」、「記載延期」、「不記載決議」の4つの区分があります。「情報照会」は、追加情報の提供を求めた上で、次回以降あらためて審議を行うこと、「記載延期」は、提案書を書きなおして再提案し、国際記念物遺跡会議の委員による現地調査を再び受けたうえであらためて審議を行うこと、とされています。